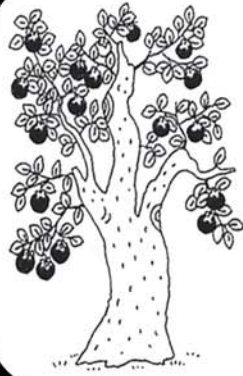


発行所/〒380-0813 長野市緑町1714-5
長野市ボランティアセンター内
Tel:026-227-3707 Fax:026-224-1513
URL <http://vnetnagano.or.jp>
E-mail:volucen@vnetnagano.or.jp



ボランティア かわらばん

編集発行 ながのボランティアかわらばん編集委員会

ほくのケーキを作ってもらったよ!



いつもくん
が行く!
~番外編~



桜井甘精堂 栗の木テラス 長野店の皆さんに、ほくをデザインした「いつもくんケーキ」を特別に作ってもらったんだ。どお? そっくりでしょ! みんなが「かわいい」って褒めるから、なんだか照れちゃった。ケーキもおいしくって大満足♪ でも、ほくが食べられちゃうのは、ちょっぴりフクサクな気持ちかなあ。
あとね、栗の木テラス 長野店には、この「ボランティアかわらばん」を置いてもらえることになったんだよ!

この夏 なりたい自分に
なれたかな?
サマチャレ レポート続々!...2,3P



伝えるコツ/スルーネットピンポン
活動応援金/大棟耕介講演会
.....ポラセンだより 4,5P



被災地の皆さんの温かさに感謝
.....災害ボランティア委員会 6P
コーディネーターのつばやき&
気になる情報いろいろ!! 7,8P



みんながネットワーク

このかわらばんは信販販売センターのご好意で
一部の地域へボランティアで配布していただいています。

「ボランティアかわらばん」は共同募金のご協力で発行しています。

この夏なりたい自分になれたかな？

サマーチャレンジボランティア2011
この夏なりたい自分になれたかな？

7 月の事前研修会で出会った参加者のみなさんが、それぞれの活動を終えて、事後研修会に顔を見せてくれました。毎年そうですが、サマーチャレンジボランティアはたくさんの方に参加者、受け入れ先、そしてボランティアセンターやサマチャレに学生を送り出す学校にもたらしめます。

昨年からプログラムを見直して来たサマチャレ、今年も試行錯誤しながらの開催でした。「参加者の思い」、「受け入れ先の思い」をどう受け止め、プログラムにするのかを大切に考えなければなりません。参加者アンケートや受け入れ先アンケートの結果も含め、今年のサマチャレを振り返ってみたいと思います。

サマチャレで

生まれる物語

in 愛和病院

夏 真つ盛り。サマチャレの参加者がそれぞれの活動先で心と身体をたくさん動かしていた8月。

ボラセンに電話がありました。サマチャレの受け入れ先愛和病院の受け入れ担当者・中村信雄さんからでした。「サマチャレで来てくれている

方たち、とてもよくやってくれています。ぜひ、見に来ませんか？」とのこと。さっそくカメラを持ってはせ参じました。

愛和病院での活動は、入院されている患者さんのためのお茶会のお手伝いです。会場へ入ると、清泉女学院高校の北野慧さん・草野広夏さん・長野赤十字看護専門学校の町田絵美里さんが他のボランティアのみなさんとお茶やお菓子の準備をしています。

3人は、この日活動3日目でした。初日、中村さんから「自分たちで何か企画を考えてみたら？」と提案された3人は話し合いをしました。1日目、草野さんが話しておじいちゃん、以前ボランティアさんからもらった赤いコースターを大切に使う



手作りのコースターを持って

ているのを知り、「コースターを作ったら良いかも」と思いついたのだそうです。

自分たちで材料を買いに行き、それぞれ作って持ち寄ったのは、心のもった温かみのあるコースター。さっそくお茶会で活躍です。3人は患者さんの横に座り、優しい笑顔で話をしていました。ふだんは訪れることのない若い人たちに、患者さんもたくさん話をされていました。楽しそうな姿が印象的。



思い出のコースターと新しいコースターを並べて見えています

活動後、ボランティアさんやスタッフさんと振り返りをしているときも患者さんから「夢は自分から行かないと来てくれないものだよ」と言われたことが話題になりました。ふだんから関わっているボランティアの方は、「それは、若い人だからよ。私たちにはそんな話はしないもの」と話してくれました。日常の中に溶け込み、静かに風を送ってくれた3人に、「3人も自

分から動いてくれた。患者さんの笑顔が全てを物語っている。サマチャレが終わっても顔を出してくれたら」と中村さん。サマチャレに参加した一人一人に同じように物語が紡がれていることを期待します。

きっかけを見つけて

宅老所さくら 芦澤 瞳

今回、サマーチャレンジボランティアの受け入れ先として、

事前研修会から事後研修会まで、サマチャレを希望する皆さんと一緒に参加させていただきました。

私自身、まだ社会に出て3年と経験が浅く、学生時代の自分のボランティアをこの間のことのように思い出します。今回は受け入れをする側の立場となり、「ボランティアを受け入れるってどういうこと？」という事前研修会のテーマには深く考えさせられました。

「ボランティアをすることで、この先につながるきっかけを見つけてほしい」。そんな思いで、ボランティアに来てくれた方たちにとってお年寄りと心から触れ合える時間になるよう心がけました。

サマチャレの参加者を見ていて思ったのは、初めはぎこちなかったお年寄りとの距離も縮まり、最終日には心からの笑顔に変わっていたことです。お年寄りと関わることで、ボラ

この夏なりたい自分になれたかな？



◎ アンケートから

事後研修会で実施した参加者アン

◎ **参加者の動向**
今年のサマチャレ参加者は196人、活動先は62カ所になりました。1人で3カ所以上の活動先で体験をした人もあり、延べ活動日人数は、659人になりました。全体の傾向として、圧倒的に女性が多く約9割を占めます。また、高校生が7割、専門学校生・中学生と続きます。

◎ 今年のサマチャレを振り返る

ボランティアに参加する前にはなかった何かを見つけてもらえたらうれしいなと思います。
私も初心に帰ってお年寄りと接することができ、新たな気持ちでこれらに向き合うきっかけをもらいました。ボランティアに参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

アンケートの結果をみると、サマチャレに参加しての満足度は、ほとんどが「かなり満足」と「満足」を選んでいきます。なりたい自分に近づけたのでしょうか。

事前研修会、活動先決定の方法も参加者としてはわかりやすかったようです。反面、特に中央会場に参加者が集中したこともあり、時間が足りなかったのではないかとこの意見も受け入れ先からはありました。じっくり活動先を選ぶ時間をどう確保するか、今後の課題かもしれません。さらに、忙しい中、事前

研修会に参加していただいたにもかかわらず、参加者が1人もいなかった受け入れ先もあり、それについても改善できないかという感想が寄せられました。今後、参加者、受け入れ先、ボランティアアセンター、学校などサマチャレに関わる多様な人とともに、サマチャレのプログラム充実を図る必要を感じた半年でした。

◎ 今後について

今年、事後研修会前に受け入れ先にアンケート用紙を配布、意見を聞くとともに、今後も日常的にボランティアの受け入れが可能な聞いてみ

『コンテナで菜園気分』

秋の野菜種まき

「今年こそ自分で育てた野菜やハーブを食卓にと意気込んでいる方、まずは小さなスペースでも育てられるコンテナ（容器）栽培から始めてみましょう…」と1月にベビーリーフをご紹介しました。その手軽さとみずみずしさと食卓がにぎやかになりましたでしょうか？ まだお試しでなかったら、10月中旬くらいまで種まきシーズンです。手軽な小松菜やカラシナ、ルッコラなどの葉物野菜、また小かぶやミニニンジンなどの根菜類など再チャレンジしてみましょう。基本的な情報は種袋の裏にあり、また種はたくさん入っているので時期を少しずつずらしてまくと長く収穫できます。

【用意するもの】 秋まきできる葉物野菜などの種。容器（できたら深め、大型のプランター）。

市販の野菜用培養土。鉢底用に赤玉土（大粒）かゴロ土。必要ならば鉢底網。

【手順】 ①容器の底穴が大きければ網でふさぐ。②鉢底用土を1cmほど入れ、培養土を8分目くらいまで入れる。③タネを点まきかすじまきする。④覆土をし、たっぷり水やりする。⑤間引きしながら育てる。間引き苗も使える。⑥時々追肥する。⑦大きくなったものも外葉から収穫すると長く利用できる。（徳永淳子）



ました。多くの施設が「今後も受け入れる」と回答しています。参加者アンケートでは、「今後もボランティアをしたい」と答えている人が8割を超えました。さまざまなお考えを紡いだサマチャレ、その糸が今後に強く長くつながる糸になるようにしたいとボラセンは考えています。

◎ サマチャレ一行詩

最後に、事後研修会でみなさんに書いてもらった「サマチャレ一行詩」をいくつかご紹介します。

頑張ろう！

その気持ちがあれば大丈夫！

サマチャレで

苦手なこともできました

気づきから

一歩踏み出す夏休み

ボランティアは

自分を変える良いチャンス

ボラセンだより

コーディネーター力養成講座 情報発信上手になろう

6月から連続で開催しているコーディネーター力養成講座は、ボランティア・地域活動に必要な力をつけるための講座ですが、今年は新しく情報発信について学ぶ講座がお目見えです。どんな話が聞けたのでしょうか。受講生から感想をもらいました。

コーディネーター力養成講座の実践編として、受講しました「情報発信上手になろう」は、とても分かりやすいテキストを使用していただき、今後にも即実践できる内容でした。

講師の市民公益活動センター所長の松岡正幸さんの軽妙な語り口に集中して聞くことができ、今までの経験談等も楽しくお聞きし、参考になりました。特に「表現から受けるト



当日使ったテキスト「伝えるコツ」は、広告のプロも関わって作られた

究極のチラシづくり講座

チラシ作り悩んでいませんか？
目からウロコ、Wordでここまでできる！
受講すればあなたもチラシの達人になれる！

と き：10月7日(金)13:00~16:00
場 所：長野市ふれあい福祉センター
参加費：500円
講 師：中島直美(NPO法人マザーポート・ITながの理事長)
持ち物：ノートパソコン
問い合わせ：026-227-3707

ンやマナー(略して「トンマナ」と言うそうです)はメッセージの内容と同じくらい受け手の印象を左右するものです」とお聞きし、伝えたい相手の顔を思い浮かべて文章やデザインを考えていかないと伝わらないんだなあ、と思いました。自分たちの伝えたいことをきちんと整理して、ターゲットにヒットするような広報活動をしていきたいものです。

そのために、いただいたテキストのドリルも、職場内で共有して、みんなでやってみたいと思います。そして、「伝えるコツ」をぜひつかみ、今後にも生かしていきたいと思えます。

NPO法人 ながのこどもの城
いきいきプロジェクト
伊藤 直子

いつもくんが行く!

スルーネットピンポン教室

9月11日、長野盲学校で開かれた「スルーネットピンポン」の教室に行ってきたよ。

みんなは長野盲学校がどんなところか知ってるかな? 盲学校は視覚障がいをもった人が通う学校だよ。ぼくは盲学校は全員目が見えない人って思っていたけど、実は80%の人が弱視(ちよつと見える人のこと)なんだ。意外と知られていないんだよ。



真ん中に折れ目の無い1枚板の卓球台を使うよ

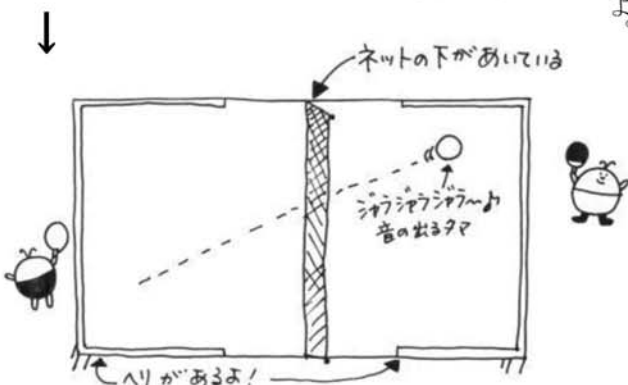
「スルーネットピンポン」は山梨県で始まって、年齢・障がいに関係なく老若男女誰でも楽しめるスポーツなんだ。卓球のネットの下を通して打ち合うスポーツで、ボールから

音がして「ぼくはここだよ」って言うてるみたいなんだ。ぼくもやってみただけ、強く打ちすぎるとアウトになったり、バウンドしてネットに引っかかっちゃうんだ。シンプルだけど難しかったよ。

この教室を開いた木暮恒男先生は「視覚障がい者が生涯にわたってできるスポーツを探していてスルーネットピンポンに出会いました。障がい者も健全者も関係なく同じルールでできることが魅力的で、少しでも普及してもらいたいという気持ちもあって教室を開くことにしました」って言うってたよ! この他にもパソコン教室などもやってるんだ。また行ってみようかなあ。

将来はパラリンピックの種目になるほど有名になったらいいなって思ったよ。

いつもくんスルーネットピンポンをするの図



ボラセンだより

こんな活動応援金

6月の公開審査会により「平成23年度ボランティア活動応援金」の交付が決定したグループの活動を紹介します。

創作紙芝居 紙ひとえ

私たちは、昨年7月から赤沢節子先生に紙芝居創作の指導を受け、デイサービスや学校などで上演してきました。その経験を生かし、今年4月からボランティア活動を目的としたメンバー8人の会を結成し「創作紙芝居紙ひとえ」としてスタートしました。

23年度「ボランティア活動応援金」を元に、高齢者にも楽しめるようマイク・スピーカー・舞台などを揃え、「紙ひとえ」としての第1回の紙芝居3話を、8月18日に中条介護サービスセンターで上演しました。

最初に宮澤秀雄さんが、このセンターにお世話になっている父親の前で、父親がいつも話をしてくれた「父の戦争体験記」を上演し、続いて高羽亀代子さんが、夫の兄弟が集まり和気あいあいとした風景「わたしは

長男の嫁」を披露しました。

そして最後に、今回は特別に、赤沢先生に終戦時の女学生の体験談「15歳の夏」を上演していただきました。



新しい舞台上演中です！

紙芝居ばかりで

は飽きてしまうので、残り20分間はハーモニカ伴奏で年齢層を考えた歌を歌うことにしました。曲目は「勘太郎月夜唄」「旅の夜風」「東京ラブソディ」そして最後は「故郷」を歌いました。

皆さんから「久しぶりに昔の歌が歌えて楽しかった」と言われ、非常にうれしく感じました。これからも、この組み合わせでいこうと思っています。

会の全員で作品は20ありますので、依頼があり次第、上演することになっています。9月は、11日に安茂里小市団地敬老会、12日にデイホームボルテワール、21日に中条介護サービスセンターで上演しました。

(文責：会長・山本浩朗)



マイクを使わず生の声で話す大棟さん

耕せながの！

大人が笑えば、子どもも笑う！

大棟耕介講演会

ホスピタルクラウンKこと大棟耕介講演会を9月10日に開催しました。大棟さんはクラウンサーカスで全国の子どもたちに笑いを届けています。私も長野で舞台のクラウンKのおもしろさに惹かれ、ファンになった1人です。

以前「耕せながの！(＊)」でお呼びした中村文昭さん(南クロフネカンパニー代表取締役)とのつながりで、お正月の伊勢で日本躍動プロジェクト(日本中を元気にしようとする人たちの集まり)に参加したところ、偶然にも大棟さんにお会いでき、活動のお話を聞くチャンスがありました。本場アメリカでは道化師のことをクラウンと呼びます。なぜクラウンが病院へ行くのか？クラウンは決して病気を治すことはできません。病気を治すのはもちろん医師です。病院では、付き添いのお母さんが看病に疲れて笑顔が消えると、子どもたちは心配で笑うことができなくなり、声も小さくなります。大人に気がつかなくてイタズラもしながら病院に行くと、笑顔が生まれ、声が大きくなります。一緒にイタズラをして怒られたりもします。笑いがコミュニケーションに変わるので、そして、そこにいる人々がみんな元気になり、病気に立ち向かう勇氣が湧きます。

3月11日の東日本大震災以降、みんなの沈んでいた気持ちが大棟さんのお話で少しでも元気になればと思いい、講演会を企画しました。楽しいパフォーマンスも含め、大棟さんの話は共感できることばかり。コミュニケーションって何だろう？と改めて考える時間となりました。

みなさんから「また呼んでほしい」との要望があり、次回は11月22日、勤労者女性会館しなのきで「クラウンが語る、笑いのチカラ、サーカスのチカラ」を開催します。大棟さんの活動や、笑うことの大切さに共感されたら、迷わずご参加ください。

(記事・耕せながの！ 込山哲也)
起す活動をしている市民の集まり

長野市災害ボランティア委員会だより

大槌町感謝祭

笑顔で絆を

被災地の皆さんの温かさに感謝 9月4日(日)

岩手県大槌町浪板地区で、委員会主催の「感謝祭」を開催しました。総勢50人で炊き出しや演舞を披露し、大変喜んでいただきました。

「感謝」祭と名付けたのは、浪板の皆さんにボランティア活動を通して、たくさん経験と温かさをいただいているからです。

4月から毎週ボランティアを派遣できたのは、活動の拠点となる長野ハウス(通称)を設置させていただいた民宿「さんずる家」さんのおかげです。毎週ボランティアが来ていることはすぐに知れ渡り、地域の皆さんが声をかけてくれるようになりました。控えめで温かい気持ちの浪板の皆さんに受け入れていただいたことで、派遣を続けてこられました。

当日は、長野のB級グルメ「ヤキ



感謝祭スローガン「笑顔で絆を！」イラストレーターゆきつぼさんと風のウィングさんの合作



演舞の後、皆で輪になってボランティア音頭を踊りました

メン」、信州新町のジンギスカンといった炊き出しに加え、民謡や獅子舞の演舞、自転車パンク修理、フリーパザーなど、心もお腹も元気になるプログラムが満載。小さいお子さんからお年寄りまで、大勢の皆さんと交流することができました。

会場となった浪板交流センター館長の荒沢さんは「波板のみなさんの明るい顔を見ることができてとても嬉しい」と話されました。会場に来た皆さんにも「楽しかった」「久しぶりに笑った」「また必ず来てね」とおっしゃっていただき、笑顔を届けることができました。

これからも、浪板地区を細く長い支援をしていきたいと考えています。また、浪板の方々に会いに行きます。

(委員会事務局・倉石孝子)

3.11を忘れない「繋がるうキャンペーン」

「3.11を忘れない」「被災地と繋がっている」気持ちを込めた「繋がるうキャンペーン」の一環として、9月25日に若里公園で開催された「ふれあいまつり」に参加しました。

被災地での活動を展示し、まだまだ復興や自立に向けた支援が必要であることを訴えました。また、被災地に行かなくてもできる支援として、大槌町六串商店の乾物や栄村のトマトジュースを販売。さらに被災地応援グッズとして、委員会オリジナルの「南部ハナマガリ鯖Tシャツ」、栄村出身イラストレーターゆきつぼさんが作成したピンバツ



来場者にも書いてもらったメッセージ

「希望のたね」なども販売しました。大槌町のクローバーを使って実施した、しおり作りも子どもたちに人気でした。

感謝祭で書いてもらった大槌町浪板地区の子どもたちのメッセージも展示し、来場者には長野から浪板へメッセージを書いてもらいました。これは、10月の派遣隊が届ける予定です。たくさんの方々のご支援ありがとうございます。募金や売上金の一部は、当委員会を通して被災地への支援として届けます。

復興への願いを込めて 中学生応援Tシャツ販売!

大槌町では多くの家庭が被災によって経済的に厳しくなり、中学生の部活動費(失った道具をそろえる費用や遠征費等)が足りない状況です。

そこで、売上の一部を支援金として寄付する、中学生応援Tシャツを作りました。岩手に縁のある宮沢賢治にちなみ「雨ニモマケズ」の応援メッセージに、「3.11」を表す雨の点々。そして雨を笑い飛ばす、岩手県と大槌町のシンボル「南部ハナマガリ鯖」

に、力強い復興への願いを込めました。1枚1500円です。詳細は委員会ブログをご覧ください。

(<http://dvcnagano.naganoblog.jp/>)



情報かわらばん

ボランティアかわらばん11月号は10月31日(月)発行予定。
記事掲載希望は10月16日(日)までに原稿をお寄せ下さい。

不登校を考える県民のつどい

昨年に続き、第2回の全県レベルでのつどいをおこないます。「子どもたちの幸せな未来をみんなで考えよう」がコンセプトです。保護者、教育関係者の他、多くの方々にご参加いただきますよう、お待ちしております。

日 時：10月23日(日) 10:00～16:00

場 所：長野県総合教育センター

内 容：座談会などの他、横湯園子さんの講演会あり

対 象：子どもさんの不登校に悩む保護者、その他子どもたちの幸せな未来を共に考えてくださる方

参加費：無料

問：上伊那子どもサポートセンター内

「不登校を考える県民のつどい」実行委員会事務局

TEL：0265-76-7627/FAX：0265-94-2064

ブログ：<http://tudoi2010.blog134.fc2.com/>

.....

第20回全国ボランティアフェスティバルTOKYO ～市民(わたしたち)がつくる、強くしなやかな社会～

3月11日、私たちはたくさんのものを失いました。しかし、震災の痛みの中で、人と人とのつながりで動くボランティアが、この苦難を乗り越える力として、大きく役立っています。

シンポジウム「市民がつくる、強くしなやかな社会」分科会・フィールドワーク

日 時：11月12日(土) 13:00～18:00/13日(日) 9:30～16:00

場 所：両国国技館大ホール他

参加費：3,000円(大学生以下無料)

問：全国ボランティアフェスティバルTOKYO
実行委員会事務局

TEL：03-3235-1171/FAX：03-3235-0050

e-mail：info@volunteerfestival.jp



ご寄付ありがとうございました!

ハガキ、切手、テレフォンカード、ベルマーク等

8月24日～9月21日分

長野市障害福祉課・ケースタウン若里・竹之内優男・
長野北部子ども劇場・第一環境㈱・水野文子・塚田朋美・
エツコ・松下信彦・山本貴子・東長野介護サービスセンター・
匿名(敬称略) 有効に活用させていただきます

震災後復興支援 チャリティ落語会

日 時：10月18日(火) 18:30～

場 所：やまろく庵長野市大字村山319-1

講 師：立川談慶さん 他

対 象：落語が好きな人

定 員：80人

参加費：2,000円

問：千曲の郷(笠原) TEL：026-259-1270



講座

言語聴覚士による失語症・構音障害セミナー 『一日でわかる!ことばの障害とその支援』

日頃、言葉に障害をお持ちの方と接する中でお困りのことはありませんか? そのような悩みをお持ちの方は是非この講座にご参加ください! 1日で悩みが解決することまちがいなし!!

言語聴覚士が一人ひとりの悩みに合わせて丁寧にアドバイスさせていただきます。

日 時：10月30日(日)

場 所：長野日赤 第一研修ホール(南新棟)

講 師：長野県北信地域の病院・施設の言語聴覚士.....

対 象：医療福祉関係者、失語症や構音障害をお持ちの方など

参加費：2,000円

問：新生病院リハビリテーション科 コミュニケーション
障害講座実行委員会事務局(大川、宮尾)

TEL：026-247-2033(※問い合わせ時間 12:00～13:00)

FAX：026-247-4727

e-mail：rehas@newlife.or.jp

.....

言語聴覚士による失語症・構音障害セミナー 視覚障害者のためのパソコン入門講座

視覚障害者向けの読み上げソフトや文字拡大ソフトを利用してHP閲覧やメールの送受信などを学ぶ講座です。

その他視覚障害者関連機器の操作方法のご相談もお受け致します。

日 時：10月18日(火)～12月13日(火)13:40～15:30 全8回

場 所：長野県長野盲学校

対 象：県内在住視覚障害者およびその関係者

定 員：4人

参加費：無料

問：長野盲学校講座等企画係(木暮)

TEL：026-243-7789/FAX：026-263-3038

e-mail：centenia@avis.ne.jp



現場状況9月分 (8月16日～9月15日)

相談件数

| | |
|---------------|-------|
| ボランティアしたい | 17 件 |
| ボランティア求む | 14 件 |
| 情報求む | 39 件 |
| ボランティア活動支援 | 13 件 |
| ボランティア活動上の悩み | 5 件 |
| よろず相談・悩みごと | 4 件 |
| ボランティア保険・事故処理 | 12 件 |
| その他 | 20 件 |
| 合計 | 124 件 |



daira-19

コーディネーターの つぶやき

8月からボランティアセンターで働き始めて、1ヶ月が経ちました。1日1日が濃くて、毎日あっという間です。本当に忙しくて目が回りそうですが、たくさんのことを吸収できていると思います! ボランティアさんを始め、いろいろな方の話を聞けるのがとても楽しいです。

そして、ボラセンで初めて知った、ボランティアの方々の活躍にはびっくりしました!! こんなにも精力的な活動を続けていらっしゃるなんて、尊敬の一言です。

ボランティアセンターでは、ふれあいまつりが終わり少しほっとしたところです。急に寒くなったので、皆さん、風邪には気をつけて秋を楽しんでください。

2011年

10月

ボランティア かわらばん



ボランティア情報誌

発行所/〒380-0813 長野市緑町1714-5 長野市ボランティアセンター内
Tel : 026-227-3707 Fax : 026-224-1513
URL <http://vnetnagano.or.jp> E-mail: volucen@vnetnagano.or.jp

イベント

「老々介護に疲れたら」 ～これでいいのだタリタリラン～

～落語家で理学療法士の免許を持つ初音家さんが、あなたの心と体をほぐします～日頃のストレスや不安から、その気がなくても虐待にいたってしまうことがあります。

現在、介護している方も、これまで介護に縁のなかった方も、落語を通して心と体のリフレッシュをしてみませんか？

日時：10月6日(木) 13:30～15:30

場所：長野市若里市民文化ホール

講師：初音家左吉さん(落語家)

定員：600人

参加費：無料

問：中部地域包括支援センター(岡本、宮沢)

TEL : 026-224-7174/FAX : 026-224-5247



発達障害がある子どもの理解と支援 ～適切なサポートと薬との付き合い方～

発達障害の特徴を持つ子どもに対して、どのように関わり二次障害を予防していけばいいのか。不登校や不適応行動がみられた際の対応を、医療の立場で支援されている岡田俊先生から教えて頂きます。多くのお母さんたちが気になっているお薬との付き合い方についても教えて頂きます。

日時：10月9日(日) 13:00～16:00

場所：長野県障害者福祉センター サンアップル

講師：岡田 俊さん

(名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科)

定員：100人

参加費：1,000円

問：えじそんくらぶ長野 チャイルドドリーム(阿部)

TEL : 090-4328-5837/FAX : 026-263-2466

e-mail : mail@childdream.jp



紙芝居まつり

かがやきひろば松代の創作紙芝居講座受講生が松代を拠点に活動を始めました。世界に一つだけのオリジナリティあふれる紙芝居をお楽しみください。

日時：10月8日(土)、9日(日) 10:00～15:00

場所：松代町 樋口家住宅えんがわ

問：紙芝居あすなる(百瀬)

TEL : 026-282-5100

第8回ハーモニー「夢」まつり

ステージ発表、小劇場、製品販売、体験コーナー、食堂などなど…。今年も盛りだくさんの内容でお待ちしています。

日時：10月29日(土) 9:30～14:30

場所：多機能型事業所エココンファミリー・長野市障害者福祉施設ハーモニー桃の郷・川中島中学校北体育館

内容：ステージ発表、花、パン、豆腐(豆腐)、野菜の販売、パザー、ラーメン・カレー・ピザ販売、模擬店、フリーマーケット

参加費：無料

問：ハーモニー「夢」まつり実行委員会(中澤)

TEL : 026-283-8787 または 026-285-3400

障害者スポーツ講習会 マレットゴルフ・スマイルボウリング

スポーツの秋です!! 楽しく気軽にスポーツしてみませんか?

① マレットゴルフ

日時：10月30日(日) 9:30～

場所：犀川第二運動場

締切日：10月27日(木)

② スマイルボウリング

日時：11月12日(土) 13:30～

場所：長野市障害者福祉センター

締切日：11月9日(水)

対象：市内在住または在勤の13才以上の障害者

定員：20人(先着順)

受講料：無料

申込み：締切日までに電話またはファックスで

問：長野市障害者スポーツ協会(赤松・大日方)

TEL/FAX : 026-266-8834



ミツバチからのメッセージ(講演&映画上映)

日本でも世界でも環境異変を知らせるミツバチの大量死が起こっています。その原因は?人間の世界では「化学物質過敏症」の発症者が増え続けています。

ヒトを含む全ての生きものたちの未来について考えるため、この集いを企画しました。

日時：11月6日(日) 13:30～15:50

場所：長野市ふれあい福祉センター5階ホール

講師：田口 操さん(子どもの未来と健康を守る会代表)

定員：150人

参加費：500円

問：きもちいい快(小池)

TEL/FAX : 026-283-4557